

英語**【解答】**

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| I | 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 |
| | d | a | c | b | a |
| II | 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 |
| | d | a | b | d | c |
| III | 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 |
| | a | c | b | c | d |
| IV | 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 |
| | a | d | a | d | c |
| V | 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 |
| | a | d | c | b | b |
| | 問 6 | 問 7 | 問 8 | 問 9 | 問 10 |
| | a | c | a | d | a |
| VI | 問 1 | 問 2 | 問 3 | 問 4 | 問 5 |
| | c | a | d | b | a |

【学習アドバイス】

2023年度の入試問題も昨年度同様、Ⅰ. 会話問題、Ⅱ. 適語補充問題、Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題、Ⅴ. 文法・語法問題、Ⅵ. 整序英作文の大問6題構成であった。全問マークシート形式の選択問題で、提示された科目の中から2科目を選択し100分で解答する形式である。よって、解答時間の目安は50分程度となり、この時間を考慮に入れても、受験生が解答できる難易度と問題数で構成されている。

難度の高い単語の知識があると解答がスムーズな部分も少々あるが、概ね難易度は大学入試入門から標準レベルである。単語・熟語、文法・語法などは高校履修範囲を徹底して身につけ、大学入試入門レベルの問題演習は終えておく必要がある。それでは、各大問の特徴を踏まえて対策を考えていこう。

- I. 会話問題は、基本的な口語表現の知識に基づいた文脈理解を問うている。教科書レベルの表現や会話の構成を確実に理解し、その知識を踏まえて考えれば、正解に至ることができる。また、会話の流れ、いわゆる「言葉のキャッチボール」で大切となるそれぞれの発話のつながりを丁寧につかんでおく必要がある。空所の前の発話だけでなく、時制や指示語に注目しながら、提示された会話全体の話の流れをおさえよう。
 - II. 適語補充問題は、1～3文で構成された2、3行の文章内にある空所に入れるべき適切な語を選択する形式である。丁寧な解釈に基づく文脈理解と入試レベルの単語知識が必要だ。大問Ⅰ.と同様、指示語などを活用して文章の因果関係も丁寧に読み解き、入試標準レベルの単語知識を活用すれば、比較的スムーズに解答できるだろう。
 - Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題は、概ね入試標準レベルまでの語を用いたやや短めの文章が題材として選ばれており、文章の主旨は題名から分かるため、以降の読解に生かしやすい。設問では、適語句・文補充問題、文章内に提示されない情報の選択問題、内容一致問題などが出題されており、難度の高い語には語注が付されている。空所に適語句や文を補充する問題では、単語や表現の知識と、周辺の文脈を丁寧に理解することだけでなく、英語で表現する際に必要な文法や表現の知識が要求されている。特に、文章の適所に文を補充する問題では、指示語を用いた情報のつながりを理解し、接続詞や接続副詞などが示す因果関係を基に空所の前後を丁寧に読む必要がある。内容一致問題は、文章中の一部分に関する情報の真偽を問うので、文章を読む前に選択肢に目を通しておき、文字を追いながらメモを残しておく、スムーズな解答ができる。文章の内容が理解できているだけでなく、場面やテーマの移り変わりに注意し、話の流れをきちんとつかむことができるかどうかを問うているので、段落同士だけでなく、段落内の話の展開もメモを残しておく、と良い。
 - V. 文法・語法問題では、高校履修事項に則った文法・語法の運用力を問う設問が主である。様々な文法分野から出題されているが、きちんとした基礎力が必須であることを考慮すると、これまでに学習した文法事項はもちろん、入試入門レベルの問題演習も必ずやっておこう。
 - VI. 整序英作文問題は、和文が与えられている形式で、選択肢に挙げられた語句を並べたときに、指定の位置にある選択肢の組み合わせを解答する形式である。答えるべき2つの選択肢の一方が特定されれば、比較的正確しやすいと思うかもしれない。しかしながら、複数のパターンの語順が考えられるものもあり、なおかつ、和文の表現は作るべき英語の表現の直訳ではないものもあり、何か一つの観点に頼るだけでは正解が危うい。先の大問同様、文法・語句の知識と運用力を徹底しておきたい。
- 本学の入試問題では、高校履修事項の徹底した理解と運用、そしてその演習が求められる。基礎に不安の残る分野があるものは、必ず復習し身につけておこう。入試問題は、入学後に必要な英語力を問うものだから、合格はもちろん、有意義な大学生活も視野に入れて対策を重ねてほしい。